

北海道苫前商業高等学校 報道記事

令和7年4月～

朝日新聞

北海道新聞

日刊留萌新聞

北海道通信社

日本農業新聞

苫前商高生 北大祭に初出店

北大祭で苫前のPRに意欲を見せる苫前商業高生



北大祭は6、8日に開かれ、学生や近隣住民ら例年10万人が訪れる一大イベント。期間中、「まると北海道フェスタ」と題して、道内各地の高校や観光協会など6団体

「コーヒー、地元産スイーツ あす販売」

【苫前】苫前商業高生が7日、札幌市北区の北大キャンパスで開かれる北大祭に模擬店「TOMA CAFE」を初めて出店する。入れたてのコーヒーと、地元のカボチャなどを使ったスイーツを販売する。生徒たちは「札幌で苫前をPRし、知名度を上げたい」と張り切っている。

目標は完売 「マチのいいところPR」

MA CAFE」は7日午前9時～午後5時に出店。2、3年生の6人が入れたてのコーヒー、苫前産カボチャを使った「カボレーヌ」「かぼタルト」などスイーツ（250～300円）5種類を計約1300個販売する。6人は放課後に打ち合わせやレジ打ちの練習を重ねている。店長を務める長谷川靖幸さん（16）は「目標は完売。やってみせます」と自信を見せる。山本ひな子さん（17）は「元氣よく明るく接客して盛り上げたい」と笑顔で話している。カフェは地域の魅力発信の役割も担う。村上芽華さん（17）は「苫前のいいところをいっぱいPRして、世界中に苫前を知ってもらいたい」と意欲的だ。（森麻子）

今年はあるどん2基が行進

苦前商高
「苦商祭」

YOSAKOIを披露

【苦前】苦前商業高校(板野成人校長、生徒52人)学



校祭のあんどん行列、YOSAKOIソーラン演舞披露が13日、町公民館などで行われ、生徒たちと地域住民が共に夏のひとときを楽

あんどんを背にYOSAKOIソーラン演舞を披露する生徒たち

しんだ。

あんどん行列は、同校の学校祭「苦商祭」に合わせて行われる伝統行事。生徒数の減少などにより一時途絶えていたが、令和3年の学校祭で21年ぶりに復活。

以降、地元建設協会があんどん製作に作業場所を提供するなど、地域の支援を受けながら続けられている。4年からは、あんどん行列に加え新たな伝統の一つにーとの思いから生徒が練習を重ねたYOSAKOIソーラン演舞の披露も行われている。

今年は、前夜祭の12日午後7時過ぎに生徒製作のあんどん2基が同校を出発。生徒や教職員に加え、保護

者ら地域住民が連なり古丹別市街地を巡行。沿道には多くの地域住民が集まり、温かな声援を送った。

途中、立ち寄った町公民館駐車場では、あんどん2基を背に生徒たちが整列。生徒を代表して2年生の高橋呂玖野君(16)が「キャnpファイヤーをバックに披露した昨年を超えます」と力強く宣言したあと、YOSAKOIソーラン演舞を披露。2枚の旗が大きく振られる中、躍動感いっばいに踊り練習の成果を発揮。見守る地域住民から大きな拍手が送られた。

踊り終えたあと、沿道に駆け付けたり、演舞の場所を提供してくれた各関係者への感謝を伝える生徒たちに、再び大きな拍手が送られていた。

(雪田康一郎)

苫前商高町内イベントでカフェ

全校生徒で盛り上げる

トマトカレーなど販売

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は7月27

日、苫前町内で開催された第22回風車まつりで軽食などを提供する「TOMACACAFE」を出店した。地元

農家の協力を受けて開発した苫商トマトカレーやカボチャを使用したスイーツ、冷たい飲み物を販売。町の一大イベントの盛り上げに

大きく貢献した。

同校では、町のイベント等で、授業で開発した商品を販売・提供する「TOMACAFE」を出店している。

今回は初めて全校生徒が参加。4グループがシフト制で接客や調理を担当した。

会場では、町内の農家の



協力を受けて開発した苫商トマトカレー、町特産のカボチャを使用した「かぼた」と「かぼレーヌ」など

のスイーツなどが出店スペースに並んだ。

生徒は4グループに分かれて、調理や接客にシフト制で対応。「冷たい飲み物も販売しています」など、元氣良く商品を売り込んだ。写真。

グループのリーダーを務めた東海林桃果さん（2年）は「全校生徒での参加は初めて。

1年生の人数が多いので、アドバイスをしながら接客していきたい」などと話した。

短期留学した高橋君と 輪島さんが成果を報告

苦前商業高校 富士町長を表敬訪問
国際交流事業



富士町長(左)に短期留学の成果を報告した
高橋君(中央)と輪島さん(町提供)

【苦前】苦前商業高校(板野成人校長)の国際交流事業で、夏休みを利用してニュージーランドに短期留学した2年生の高橋君(中央)と、1年生の輪島さん(右)の2人が5日、国際交流事業は、英語を使用する国に生徒を派遣し、英語とその文化に直接触れることで広い視野と国際感覚を持つ人材を育成することが狙い。令和6年度はオーストラリアに生徒を派遣している。

今年の派遣期間は、8月6～19日の14日間。2人はホストファミリーの下にホームステイし、博物館見学やキャンパスツアー、大学生との交流を行うなどして異文化に触れ、見聞を広めてきた。

ホームステイ先で料理を振る舞い、喜んでもらった思い出を話すのは高橋君。「今までの経験の中で一番の経験だった。留学を通して自分の見ていた世界はまだまだ狭かったのだと思った」

北海道新聞 2025.9.9

と感想を語った。

一方、輪島さんは「現地の学校生活に生かしてほしい」とエールを送る富士町長に、「2人は土産のニュージーランド産はちみつなどが成長していることが自分をフレイゼント。短期留学に少しでも感じることができた」と振り返る。

(雪田康一郎)

NZに短期留学「成長」

苦前商高生2人が帰国



富士町長(左)にお土産を手渡した高橋さん(中央)と輪島さん

【苦前】8月に町の国際交流事業としてニュージーランドに短期留学した苦前商業高2年の高橋君(中央)と、1年生の輪島さん(右)が、富士敦朗町長に帰国あいさつをした。

短期留学は8月6～19日の2週間。2人は同国のオークランドでそれぞれホームステイしながら語学学校に通い、現地の文化を学んだり交流を深めたりした。

2人は9月5日に町役場を訪れた。留学生活について高橋さんは「北海道に似た気候で、人の温かさが心に残る。貴重な経験をした」。輪島さんは「多くの経験を過ごし、自分の成長を実感できたことが収穫」と振り返った。

富士町長は「今後の生活にこの経験を生かしてください」と激励した。

(森麻子)

北海道通信

苫前商高 札幌で生徒販売実習会

13日に「苫前市場」開店

カボチャ使用のスイーツ等

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は13日午前10時から、札幌市内の大通ビッセ地下2階フロアで生徒販売実習会「苫前市場」を開催する。当日は、生徒が考案した苫前町産のカボチャを使用したオリジナルスイーツや町の特産品などを販売する。3年生の三好さんは「最後の販売実習を悔いなく、笑顔で売り切れるよう頑張りたい」と力強く宣言した。終了時間は午後3時45分を予定している。

実習会は、生徒が関係者らと

完売を目指す
三好さん
（左）と佐藤
さん

交渉・調整を担い、特産品や野菜などを仕入れて販売することで、苫前の地域振興やPRを目的としたもの。今回で5回目を迎える。

当日は2・3年生、計15人が参加する予定。学年ごとのグループに分かれて、町内の農家が育てた野菜や生徒が苫前町産のカボチャを使用して開発したスイーツ、シカの角を加工した箸置きなどを販売する。

2年生の佐藤亜美さんは「完売が目標。元気良く高校生らしく売り、来年以降にもつなげていきたい」と話した。

また、同日は苫前会場として同校にカフェスペースを開設。1年生が飲み物などを提供する。時間は午前10時から午後2時まで。

苫前商高の高橋さん、輪島さん

日本の良さを再確認

NZ留学で町長表敬訪問

【留萌発】苫前町の国際交流事業としてニュージーランドでの語学留学に参加した苫前商業高校（板野成



福士町長に土産を手渡す高橋さん（中央）と輪島さん（右）

【留萌発】苫前町の国際交流事業としてニュージーランドでの語学留学に参加した苫前商業高校（板野成

人校長）の高橋呂玖野さん（2年）、輪島維俐さん（1年）が5日、苫前町役

場を表敬訪問した。福士町長と開発法起教育長に現地での学びを報告。高橋さんは「他の国と日本の違いを知ることができ、あらためて日本や自分の住む場所の良さを知ることができた」と笑顔で話した。交流事業は、高校生が諸外国の文化・歴史に触れ、広い視野と国際感覚を有する人材を育成することを目的としたもの。本年度は8月6～19日の期間で、高橋さんと輪島さんの2人が語学や現地の文化について学んだ。5日には、福士町長と開発教育長のもとを訪問して

実施報告。2人は現地での学校生活やホストファミリーと過ごした休日の思い出を紹介した。輪島さんは「自分の成長を感じることができた。短い期間でも自

分がこんなに変わることができたことを実感している」と話した。

福士町長は「外国と自分の住んでいる地域の良さを知る貴重な機会だったと思

う。今後に生かしてほしい」などとエールを送った。

報告終了後、2人が現地で購入した菓子などを手渡し、謝意を伝えた。

苫前商高生地元トマトカレー

きょう公民館フェスで販売 「将来はレトルトに」



オリジナルカレーを販売する苫前商業高の生徒たち。中央が高橋さん

【苫前】苫前商業高の生徒有志6人が、地元の古丹別産ミニトマトをたっぷり使ったカレーを開発した。25日に始まる町の公民館フェスティバルで、同日正午から1食600円で50食販売する。生徒は「将来はレトルトカレーとして売りたい」

と意気込んでいる。同校は町内外のイベントで、生徒がコーヒーマシンやスイーツを販売する「苦カフェ」を出店しているが、食事メニューがなかったことからカレーを提案しようと考えた。「店長」を務める2年の高橋さん(16)はもとも

と料理好き。子どものころからハンバーグやカレーを作って家族にふるまっていた「喜んでもらえるのが楽しかった」といい、レシピー作りに挑戦した。カレーには古丹別産ミニトマトを加え、スパイスを配合したり、ナッツを使ったりと試行錯誤を重ねてレシピを考案。町内の飲食店のアドバイスマネジメントなどをたっぷり使ったオリジナルカレーが完成した。

商業高生らしく原価計算も行い、材料を厳選した。試食した同級生からは「辛すぎず、スパイスが効いている」「野菜嫌いでも食べやすい」と好評だったという。メンバーの佐藤亜美さん(2年)は「めっちゃおいしくできた」とPRする。高橋さんは「応援してくださった苫前のまちの皆さんの思いがこもったカレーになった」と完売に期待する。(森麻子)



苫前町で開かれた町民フットサルフェスティバル2025

【苫前】町スポーツセンター主催の町民フットサルフェスティバル2025が、15日午後6時から同センターで開かれ、出場した9チームの選手たちが、白熱の攻防を展開した。

9チームが白熱の攻防

苫前でフットサルフェス

フットサルを通じたスポーツ活動への参加意欲向上や、スポーツの日常化へのきっかけづくりを目的とした恒例のイベント。

今年も中学生以上を対象に、1チーム5人編成で10人まで登録可能とし、町在住者や町内勤務者がチームの3分の2を占めていれば町外者（10人登録で最大3人まで）も参加可能として開催した。

苫前中学校、苫前商業高校や羽幌高校の生徒や教職員、母国のカメルーン、インドネシア、アメリカから遠く離れた町内で働く若者などで構成した9チームがエントリ。

3チームずつ本戦の結果は次の通り。

▽本戦リーグ ①ミドルシャインマスカット（平井徹、森本心、太田俊哉、古川光、石川力也、渡邊颯、花田郁哉、大橋瑛太、ワミゴンガン）②STARMAN③真向勝負！！

▽交流リーグ ①寺の子（森口新太、相間野時音、鈴木聖岳、山本昊承、渡邊唯斗）

チャンスををつくるなど、スピーディーな攻防を繰り広げた。

目の離せない試合展開に見守る他チームの選手も歓声とため息を交錯。外の寒気をよそに、会場は熱気に包まれていた。

（雪田康一郎）